山梨の農業を未来につなぐために

将来に希望が持てる農業を確立し、農村の活性化を図っていくためには、若者から団塊の世代まで幅広い人材を確保することが必要です。このため、県では、担い手育成のためのさまざまな施策を展開しています。

○新規就農希望者の農業への橋渡し
―「山梨県就農支援センター」開設

昨年、新規就農希望者の支援機関となる「山梨県就農支援センター」をJA会館南別館（甲府市）に設置しました。就農支援センターでは、就農支援マネージャーを常時2名配置し、就農を志す青年や団塊の世代、新規参入者などに対し、就農相談、無料職業紹介、就農支援資金の貸し付け、農地のあっせんなどについて、きめ細かな相談活動と迅速な情報提供を行っています。

○未来の農業を担う人材の養成
―「県立農業大学校」再編

次代の本県農業を担う農業経営者と農業指導者を養成する県立農業大学校が平成20年度から生まれ変わります。本県農業の中核的担い手の養成、退職帰農者や離転職者に対する農業技術の教育・訓練などの視点から総合的な再編を行います。

実習を通じた実践力の強化、先進農業経営者の講義などカリキュラムの充実、また、専門分野に特化した教員の確保や非常勤講師の活用など効率的な教員の配置を行うとともに、本校（北杜市長坂町）と双葉校舎（甲斐市）のキャンパスを二元化します。学科の再編などにおいては、果樹学科と園芸学科（野菜コース・花きコース）からなる「養成科」、ブドウとモモの「専攻科」を新設し、奨学金制度の利用や4年制大学への編入が可能となるなどのメリットを持つ専門学校として整備します。

○魅力ある高度な農業経営を目指す
―大規模農業経営モデル育成事業推進

本県の農業生産力を維持し、高品質で安全な食料の安定供給を図るためには、収益性の高い農業経営を確立し、地域をリードする大規模な農業経営体を育成することが重要です。

このため、既存の農業経営体に対し、栽培技術の向上、経営改善、人材育成や農地集積に向けた重点的な支援を行い、経営規模10ha以上、農業生産額1億円を目指すモデルとなる大規模農業経営体の育成に積極的に取り組んでいます。

未来につながる はつらつとした山梨農業「やまなし農業ルネサンス大綱」の策定

県では、将来に希望が持てる農業の確立と農村の活性化を図り、山梨の農業を再生するため、「やまなし農業ルネサンス大綱」を策定し、「担い手が育つ高収益な農業の実現」と「魅力ある活力に満ちた農村の創造」の2つの目標に向けた取り組みを行っていきます。

大綱では、農業に携わる方々や農村に住む方々が誇りと自信を持てる「未来につながる はつらつとした山梨農業」を10年後の将来像とし、①未来を支える多様な担い手づくり②戦略を重視した新たな販売ルートづくり③次代につながる力強い産地づくり④消費者から信頼される安全で優れたものづくり⑤自然と調和した美しい里づくり⑥観光と連携したふれあいの里づくりの6本の柱を中心に各種施策を推進することとしています。

今後も、東京圏に近い有利な立地条件や変化に富んだ自然環境を生かした日本一の農業を目指し、担い手の確保・育成、販路の拡大、産地基盤の強化などの取り組みを総合的に進めていきます。

一人でも多くの方の夢をかなえられるよう農業への橋渡しをしていきたい。

インタビュー
県就農支援センター
就農支援マネージャー
平井周二さん
Syuuji Hirai

私たちの仕事は、「農業に携わりながら田舎暮らしをしたい」、「今は会社勤めをしているが、将来、農業で生計を立てたい」など就農を希望する方々に情報を提供し、各種の相談を受けることです。具体的には、技術習得のため、県立農業大学校の職業訓練農業科への入校あっせんや農業生産法人・先進農家での研修あっせん、農業参入に際しての支援資金の貸し付けなどです。新たに就農するには、技術の習得や農地、資金、住居の確保などさまざまな準備が必要となります。ここでは、事務局長を含めスタッフ3名、来所者と一緒になり日々奮闘しています。昨年7月のセンター開設から既に200名近い方が訪れています。

相談に来る方は、20歳代の女性から退職間近で第二の人生を考えている方まで幅広く、地域的には、東京、神奈川、埼玉、千葉の方がほとんどです。山梨は農業にふさわしい気候であり、作った農産物をすぐに大都市圏で販売できることが魅力となっていると思います。

一度ここに来ていただくだけで、就農に関するすべてが解決されるわけではありません。一歩一歩、就農に近づいていっていただく必要があります。実際に農業にほれ込んでいる方は、2回、3回と訪ねてきます。その熱心な姿を見ていると、その方が実際に農業に就くまで応援していきたいと思います。

これから就農を希望される方々には、農業の素晴らしさはもちろんですが、自然と向き合うことにより、農業の厳しさ、リスクの大きさも知ってほしいと思います。

また、ほとんどの方が都会からお越しになり、いきなり知らない土地で生活するわけですから、入る方も地元で受け入れる方も、とまどいがあるのは当然です。新しい土地で新しい仕事をするには、その土地になじむように努力することが一番大切だと思います。

一人でも多くの就農希望者の方の夢をかなえられるよう、これからも精一杯、農業への橋渡しをしていきたいと思っています。

いつも家族が一緒。これも、農業の魅力ですね。

インタビュー
桜庭真理さん
Mari Sakuraba

私は、東京で会社勤めをしています。将来は農業に就きたいという夢があり、今まで山梨県のリンゴ園や長野県など5～6カ所の農家で、週末、農家に宿泊しながら農業体験をしてきました。

今回、この梶原農場（北杜市高根町）で農業体験をすることになったきっかけは、県就農支援センターからの紹介でした。以前、山梨で農業体験をした帰りに、JA会館に立ち寄り情報収集している時、新規就農希望者の支援を行う「県就農支援センター」の存在を知りました。

さっそく、担当の方に、野菜に関する農業体験をしたいなどの希望を伝えると、その場で、体験先、体験できる日時などの約束を取り付けてくれ、就農支援センターの持つネットワークに驚きました。

田舎暮らしへ興味を持ち始めたのは、1年ほど前、長野県のペンションにお手伝いに行ったとき、こんな静かなところで暮らせたらいいなと思ったことです。それに、人間にとって最も大切なのは「食」。でも私は、アスパラの畑を初めて目にした時に、野菜がどのように育っているのかも知らなかったことに気が付きました。日々、人々の食卓に届く「食材」。私も、それを育てていきたい。農業に携わっていきたい。その時、強く感じました。

私は神戸出身で、大学進学のために東京へ来ました。大学では法律、大学院では国際関係論を専攻し、学生時代は、発展途上の国々に興味がありました。私たち日本人は、発展途上国での生活は、辛いだろうなと思いがちですが、実際、途上国の人々は、とても豊かないい表情をして暮らしています。人間は、物の豊かさだけでは幸せになれないのではないかと気づかされました。

梶原農場では、水菜、ほうれん草、大根などの収穫を体験しました。梶原さんは、将来、農業をしたいという固い意志がある人しか研修も引き受けないと聞いていましたので、緊張の中で初日を迎えましたが、厳しい中にも優しさのある指導を日々受けています。

近いうちに今勤めている東京の会社を辞め、本格的に農業の研修先を見つけ、4月からはその土地に根付きながら農業の勉強をすると決めています。自分の息づかいしか聞こえない広大な畑。そんな静かな環境の中で、黙々と仕事をする「農業」に魅力を感じています。

将来は、家族みんなで農業をしたい。農家に泊めてもらった時、子どもたちが普通に野菜の収穫を手伝っているのを見ました。いつも家族が一緒です。これも、農業の魅力ですね。